

◆ 平成 26 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 一二三富の会

代表者：代表理事 浜端 英男

URL : <http://hifumitominokai.wix.com/hifumitominokai>

1. 活動が必要とされた状況

坂戸市は、近年相続等の関係で樹林地が伐採され、緑は急激に減少している。その中には公園として親しまれた雑木林もあり、そこは子供たちの遊び場であり、住民憩いの場、コミュニケーションの場であり、夏場は涼しいオアシスであった。このような大きな役割を担っている緑保全について、市民目線に立った取組みが NPO として必要と感じた。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ① 流山市では、甲斐徹郎氏の提案に基づき「緑の連鎖」をまちづくりに取り入れていることが分かり、最初のステップとして甲斐氏に坂戸市内での講演を依頼することにした。
- ② 坂戸市内の「緑とまちづくり」の現状を、事前に甲斐氏とともに視察し問題点の共有化に努めた。甲斐氏には、視察等で得たこれらの現状を踏まえた内容の講演を依頼した。
- ③ 講演会に1人でも多くの参加を願い、NPO 全会員に講演会の PR を呼びかけた。また、約 150 団体へ親書、メールにより講演会の招待状、「お知らせ」を配布した。坂戸市教育委員会へは「後援」の申し入れをし、認可後、坂戸市広報に「講演会のお知らせ」を掲載依頼、掲載実施された。チラシは NPO 会員、役員により配布され、ポスターは坂戸市認可のもと、25 枚は市内各所の坂戸市広報記事板に掲示、残りは公民館等に掲示した。
- ④ 講演会には 130 名の参加者があり会場はほぼ満席であった。全体として時間通り順調に運営できた。甲斐氏の基調講演は問題の切り口が斬新であるとともに、理論的であり、かつ聴講者にとって分かりやすく好評であった。また、坂戸市内の映像により、まちづくりとしての問題点も取り上げてもらい、聴講者のより深い共感に繋がったと感じている。

3. 活動の成果

- ① 私たちが本講演会に呼びかけた関係者（坂戸市役所関係担当、同埼玉県、NPO、ボランティア団体）及び市民に当会の理念が、今回の講演を通じ理解が進んだと感じている。それは、「緑のあるところに人は集まり、そこでコミュニケーションが図られ、相乗効果により人々がお互いを知る血の通った街になる」— 私たちが目指すそのものである。
- ② NPO とは何をやっているのか理解が得られ、NPO 全般にとって好影響を与える。

4. 今後に残された課題

基調講演で甲斐氏は、緑のまちづくりとして「自分でできること」を中心に取り上げ、行政との関わり部分には触れなかった。むろんまちづくりは市民一人一人が出発点であることは間違いないことであるが、行政とのすり合わせは不可欠である。このような「行政との連携、インフラ分野との調整」をどうするのかは、今後の大きな課題である。



甲斐徹郎氏の講演



川端素子氏の講演